

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年12月31日

【評価実施概要】

事業所番号	0170202790		
法人名	株式会社 スリーコモンズ		
事業所名	グループホーム セセラぎの森		
所在地	札幌市東区東苗穂7条3丁目1番5号 (電 話) 011-785-5333		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年12月28日	評価確定日	平成22年2月25日

【情報提供票より】 (平成 21年12月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 18年 1月 20日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	16人, 非常勤 0人, 常勤換算 16人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	48,000　円		その他の経費（月額）	光熱水費　20,000　円
	暖房費（11～3月） 10,000円			
敷　　　金	有（　　96,000　円）			
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　　1,200　　円			

(4) 利用者の概要 (12月21日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護 1	0	名	要介護 2	4	名
要介護 3	8	名	要介護 4	6	名
要介護 5	0	名	要支援 2	0	名
年齢	平均 83.1 歳	最低	67 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	札幌ライオン病院、北海道脳神経外科記念病院、フォース歯科他
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

既存ビルを改造して開設したグループホームのため、内部見通しの悪さなど一部構造上の問題はありますが、職員による利用者への熱意のあるケアサービスがこれを補っています。ホームは、町内会行事への参加など地域との交流、外出行事やボランティアによる慰問、洗面台やクローゼットのある居室など、利用者がゆったりと楽しみながら暮らせるよう努めています。また、医療機関との連携による利用者の重度化・終末期への対応、家族へのきめ細かい報告など運営上の努力が伺え、家族も利用者のホーム暮らしに安心しています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での「地域密着型理念の確立」など複数の課題は、対策を協議し、改善されてホーム運営に反映されています。未解決の「避難訓練の徹底」なども実施計画をまとめ、改善に向け努めています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	自己評価表は職員各自が検討し、提出された内容を管理者がまとめ、さらに職員全員に報告して完成させています。自己評価の課題は、会議で協議しながら改善に取り組んでいます。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議は、包括支援センター職員や町内会役員を含めて開催し、ホームに関する各種報告の他に、ホーム運営に関する質疑応答や意見交換が行なわれています。ビル1階に保育園が開所するため、同園との連携も説明して協力を要請するなど、会議を通してホームの運営に反映させるよう努めています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	ホームは、苦情処理体制も整備しており、家族来訪時にも職員が苦情等を把握するようにしています。利用者のホーム暮らしについて、家族からの意見や要望がある時は申し送りや会議で伝え、内容を検討しながら早急に対処するよう努めています。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	利用者と職員は、町内のお祭りや児童会館の行事、小学校の花壇整備など地域行事へ積極的に参加しており、小学生や地域のボランティアもホームへ慰問に訪れています。また、近くその他グループホームと共同でお祭りを開催し、周辺住民の方々に喜んで参加していただくなど、地域との交流が進んでいます。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営法人の理念及びグループホームの基本理念の中に、利用者が地域の中で安心して生活が送れるよう支援する旨を明記しています。また、ユニット毎に職員が独自のケア理念を作成し、利用者のケアサービスに反映させています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ユニットケア理念を作成する際に、法人理念やホーム基本理念を念頭に置きながら職員全員で協議しており、ミーティングでも理念を再確認するよう努めています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者は、職員とともに地域のお祭りや児童会館の行事へ参加したり、小学校の児童やボランティアがホームへ慰問に訪れています。また、近くその他グループホームと共催でお祭りを開催し、近隣の方々に参加していただくなど、地域との交流が進んでいます。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表は、職員全員が内容を検討してその結果を管理者がまとめています。まとめた自己評価表は再度、職員に説明してから完成させています。評価結果はミーティングで検討し、改善に取り組んでいます。		

札幌市東区 グループホーム せせらぎの森

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	以前は不定期であった運営推進会議を2ヵ月毎の定期開催に改めています。会議では、町内会役員や包括支援センターなどのメンバーからも質問や意見をいただいております、これらを利用者のサービスに反映させるようにしています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、区や市の管理者会議で市職員との情報交換を行なっていますが、区の担当窓口へ訪れる機会も多く、担当者と話し合いながら意見等をホーム運営に活かすようにしています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族のホーム来訪時に、利用者の暮らしぶりを伝え、遠隔地の家族へは電話で報告しています。ユニット毎に毎月発行のホーム便り（せせらぎ通信）は、利用者の担当職員が一人ひとりの写真やコメントを記載し、家族に喜ばれています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱設置や苦情処理体制を整備されています。家族からの意見・要望等は家族来訪時に努めて把握するようにしており、意見等があった時は申し送りや会議で報告しながら改善に向けて努力しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者に不安感を与えないよう、異動は最少限にとどめています。異動がある際には引継ぎを十分に行ない、職員が時間をかけて話かけたり、両ユニットの交流を深めてダメージを防ぐようにしています。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部ではユニット会議を通じてケアサービスのあり方などを話していますが、体系的内部研修までには至っていません。外部研修は、セミナー内容に応じて適任者を参加させ、研修結果も内部に報告して職員の共有となるようにしています。	○	内部研修は、事前にテーマを決めながら計画的に実施し、外部研修へは、職員によって参加状況にムラがあるため、研修情報を提供しながら、できるだけ職員全員が参加することを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議を通じて他ホームとの情報交換を行ない、ネットワーク作りに努めています。この結果、他ホームの相互見学や近くのおホームと夏祭りを共催するなど、同業者との交流が進み、交流を通して利用者のケアサービスに反映させています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に家族と利用者の生活歴や病歴など十分に話し合い、ホームを家族とともに見学していただいています。入居当初は、家族と頻りに連絡を取りながら、状況に応じて家族にも来ていただくなど、利用者がホームに馴染めるよう努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の個性を大事にしながら、できること、好きなことを把握するようにしています。さらに利用者と信頼関係作りにも努め、生活を共にする家族としての意識を持ちながら支え合う関係を築いています。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者は、自分の思いや意向を十分に表現できない場合が多いため、その時は、家族からの情報も参考にしながら根気よく話しかけたり、表情や行動から把握するようにしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、家族や医療機関とも相談しながらセンター方式によるアセスメントで暫定計画を作成しています。介護計画は、職員全員の共有としていますが、担当職員を決めており、モニタリングを進めながら暫定計画後の介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、通常3ヵ月毎に定期見直しを行っています。利用者に体調変化が生じた時は、医療機関とも相談しながら随時介護計画を見直し、家族に説明して了解をいただいています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームは、利用者の通院、買物や花見など車両で送迎支援をしています。ホーム内では、定期的な訪問診療や訪問美容、ボランティアによる慰問受け入れ、他ホームとの共催による夏祭り開催など多様な支援を実施しています。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週毎の協力医療機関による訪問往診、週1回の看護師によるチェックと24時間コール体制など、利用者の健康に万全を期していますが、家族や利用者の希望によって他医療機関の受診も自由です。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームは、利用者の重度化や終末期における対応指針を作成し、家族にも説明して同意をいただいています。利用者が重度化等の状態になった際には、医療機関とも十分な連携を図りながら対処し、過去にも看取り介護を実施した経験を有しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、日常のケアサービスを行なう際に、利用者のプライバシーや誇りを損ねないように注意深く配慮しています。介護記録など個人情報に関する資料等も適切に管理されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの身体状況や思いが異なるため、無理にホームや職員の都合に合わせることに無いうように注意しています。職員は、利用者の希望をできるだけ把握しながら、利用者が共有スペースや居室で1日をゆったり過ごせるよう支援しています。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事献立は、利用者の希望も配慮しながら職員が作り、食材も利用者と一緒に買いに出かけています。また、調理手伝い、食事準備や後片付けなどを共に行ない、食事時は、職員も同席して同じものを摂りながら、さりげなくサポートをしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、原則として週に2～3回午後の時間帯に実施していますが、利用者の希望で午前中に入浴の場合もあります。利用者の身体状況によってはシャワー浴や足浴、清拭なども実施しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、食事の手伝い、掃除、洗濯物たたみなどの役割を持ち、カルタ、あやとり、風船遊び、歌などやボランティアによる慰問を楽しんでいます。また、ホームは、地域の行事参加や車両で花見や外食などの外出支援も積極的に実施しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や食材などの買物に出かけています。また、ユニット毎に実施している月2回の行事で、お祭り見学、花見、温泉、外食、ショッピングセンターなど多様な外出支援を行なっています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の時間帯は、玄関及びユニット入口に施錠はされていません。入口ドアにはチャイムが付けられ開閉が分かる様になっていますが、さらに、内部に設置された鏡によってドア付近の利用者が確認できるようになっています。		

札幌市東区 グループホーム せせらぎの森

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	災害時のマニュアルや緊急連絡体制は整備されていますが、両ユニットとも管理者の交替など、人員体制の変更などの状況もあり、避難訓練はまだ十分な状態ではありません。ホームでは、今後避難訓練や夜間想定訓練など、消防署の協力をいただきながら実施を計画しています。	○	今後夜間想定訓練を含めた避難訓練を予定しているので、地域住民の方々の協力もいただきながら、年2回の確実な訓練実施を望みます。また、救命救急訓練も職員全員が受けることを期待します。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事量や水分摂取量は毎日記録して確認しています。栄養バランスも職員が献立を作成する際に配慮していますが定期的カロリーチェックは実施していません。	○	利用者の栄養バランスやカロリー量は、職員が過去の経験から判断していますが、年1回定期的に栄養士によるカロリー計算の実施を期待します。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ビル改造型のホームで、一部構造上の問題もありますが、職員の工夫や努力によって不便の無いよう努力しています。共用空間には、鉢植えが置かれ、壁面には写真や利用者の手作り作品などが貼られ、季節毎の飾りも行なわれるなど、利用者は家庭的雰囲気の中で過ごしています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には洗面台とクローゼットが設置されて、生活に便利な構造となっています。利用者は、使い慣れた調度品や仏壇など望みの物を自由に持ち込み、居心地良く暮らしています。		

※ は、重点項目。